

公益社団法人富山青年会議所

2020年度理事長所信

理事長 渡辺 光

温故知新、そして革新へ  
～笑顔あふれる<sup>まち</sup>地域、とやまを目指して～

【はじめに】

公益社団法人富山青年会議所は、第二次世界大戦敗戦後の1952年に、焼け野原からの復興とより良い日本、<sup>まち</sup>地域の実現のために志同じくする52名の有志によって、富山懸青年会議所として設立されました。その後、昭和、平成、令和と三時代を経る中でその想いを一切絶やすことなく、68年もの歴史を刻む団体となりました。昨年は3回目となる公益社団法人日本青年会議所第68回全国大会富山大会を主管し、この<sup>まち</sup>地域に住み暮らす人びとや、行政、各諸団体の皆様、そしてシニア会員の方々より多大なご協力とご支援を賜り、一層の協力関係を構築することが出来ました。また、大会の開催においては、一部予定とは異なる日程での実施となりましたが、富山JC一丸となって対応したことで、会員間の絆を過去最高に強める事ができた全国大会となりました。そして、全国大会はJC運動のゴールではなく、あくまで通過点であると捉えるならば、大会の成果は本年以降の私たちの運動による<sup>まち</sup>地域の変化が示すものだと考えます。本年全国大会を主管した経験は、私たちのJC運動をさらなる高みへと導き、<sup>まち</sup>地域に良い影響をもたらす団体への進化に繋がる絶好の年となります。

温故知新、そして革新へ

「古きを温ねる」とは、過去を繙き、そこから過程や事実、結果を学ぶ事です。そして「新しきを知る」とは、学んだものから新たな知識や時代に適した見解を導く事です。古くから受け継がれている事は、何か理由や原因が必ずあるはずで

す。その事を知り、さらに時代に適した「新しき」に変えようとしていくことで、より良いものが生み出されるものです。「古きを温ねる」とは決して過去に捉われるという事ではありません。過去に捉われるという事は現状維持であり、現状維持だけでは良い変化は起きません。いかなる組織やコミュニティにおいても同様に当てはまると考えます。現状をより良いものにするためには、変えようとする姿勢が必要不可欠であり、その姿勢をもち続ける事が、すなわち『革新』です。『革新』とは、必ずしも変えるといった変革や改革と同じ意味ではないと考えます。『革新』は、私たちの運動を活発なものにし、その運動はこの<sup>まち</sup>地域に良い影響をもたらすものです。その中で決して見失ってはならないものは、先達より永きに亘って受け継がれてきた、『より良い<sup>まち</sup>地域の実現』を目指すという想いであり、この先も決して絶やしてはならないものです。

笑顔があふれる<sup>まち</sup>地域、とやまを目指して

JCの活動には、新たな出会いや再会、これまでにない経験ができる機会など、笑顔をもたらす瞬間は多くあります。ふとした瞬間の笑顔は多くあるなかで、JCの活動だからこその心から生み出される笑顔は少なくなっているように感じます。その笑顔は同じ理想を目指す仲間と切磋琢磨し、苦楽をともにして乗り越えた時の達成感や、協力や支援をいただいている方への感謝など、様々な過程を経て生まれるものです。本年は、改めてJC運動の醍醐味であるこの笑顔を増やす必要があると考えます。事業を良いものへと進化させようとする姿勢からは笑顔あふれる運動が生まれ、<sup>まち</sup>地域へ良い影響をもたらす「笑顔があふれる<sup>まち</sup>地域」へと繋がっていきます。「笑顔があふれる<sup>まち</sup>地域」とは、2012年に富山JCが制定した「とやまの10年先未来ビジョン」にもあるように、住み暮らす全ての人びとが垣根なく認め合い、助け合いの調和が保たれ、<sup>まち</sup>地域のために行動しあえる、そして成長できる機会がある<sup>まち</sup>地域であると考えます。私たちはこの「笑顔があふれる<sup>まち</sup>地域」を見据え、JCだからこそのヒト・モノ・コトを活かした事業を実施し、<sup>まち</sup>地域に住み暮らす全ての人びととともに運動を推し進めていかなければな

りません。

### 【組織の魅力を発信する運動】

平成 10 年に施行された特定非営利活動促進法によって、非営利で社会貢献活動を行う組織や団体が数多く存在するようになりました。その結果、私たちの活動エリア内においても、約 180 もの組織や団体が多種多様な活動を推進しています。その中でも富山 JC は 68 年の歴史を持つ先駆的な団体ですが、まだ広く認知されている団体とは言えません。富山 JC は、『より良い<sup>まち</sup>地域の実現』に向け運動・活動を進めていくためには、広く認知されるため、そして<sup>まち</sup>地域に住み暮らす人びとに選ばれるために、団体の魅力を今まで以上に発信する必要があります。

#### 選ばれ続けるための、富山 JC の魅力発信

富山 JC の魅力は、68 年間脈々と受け継がれてきた『より良い<sup>まち</sup>地域の実現』という想い、時代に即した運動、世界規模の組織としてのスケールメリットを活かした国際交流や、様々な立場や役職を経験できる機会の提供、そして約 1,000 名のシニア会員との繋がりが挙げられます。運動においては、事業の実施に至る背景と目的に重きを置く点が挙げられます。私たちはその魅力を効果的にそして継続的に発信を行うことで、他団体との差別化が図られ、富山 JC のさらなる認知に繋がります。そして、<sup>まち</sup>地域に住み暮らす人びとから、ご理解とご協力をいただくことで運動は広がりを見せていきます。この運動の広がりこそが富山 JC の魅力や価値を高め、ひいては<sup>まち</sup>地域に住み暮らす人びとから選ばれ続ける組織となります。

### 【メンバーシップを醸成する運動】

多くの組織や団体が存在する今、まちづくり運動は様々な趣向のもと多種多

様に行われています。しかしながら、どのまちづくり運動においても重要なことは、運動の主体は私たちのような組織や団体だけでも行政だけでもなく、その<sup>まち</sup>地域に住み暮らす全ての市民であるということです。市民主体のまちづくり運動が行われなければ、住み暮らす全ての市民にとってより良い<sup>まち</sup>地域の実現は到底なしえません。主体が市民にあることで、一人ひとりのまちづくりに対する役割が見いだされます。まちづくりに対して役割をもっているという意識を根付かせること、つまりメンバーシップの醸成が、活発なまちづくり運動を生み出す事へと繋がります。

メンバーシップの醸成が、永続的なまちづくりへ

現在、多くの行政や企業が活動の中に SDGs を取り入れ、持続可能な世界を実現するための国際目標が広く推進されようとしています。私たちも、多くの市民に主体性をもって行える活動を促し、私たちも含めた市民と、既にまちづくりに対して主体性をもっている人びととともに手を取り合いながら、メンバーシップを醸成しましょう。そのメンバーシップの醸成こそが、<sup>まち</sup>地域に住み暮らす全ての市民が主体のまちづくり運動の活性化となり、永続的なまちづくりに繋がります。

### 【ひとの可能性を高める運動】

現在、私たちが幼かった頃には、想像もできなかった変化の多い時代になっていると感じます。それはものの豊かさに留まらず、グローバル化による社会環境の変化や思想の自由化、ライフスタイルの多様化、働き方においても同様です。その変化は、ミクロの視点とマクロの視点の双方を持ち合わせなくては、捉えることが難しいものであると考えます。視野の外側では、日々新しいものが生み出され、そして消えていったものも多くあったのではないのでしょうか。変化を見過ごすということは、より良く変化する機会を見過ごすことであると考え

ます。変化が多い時代において、変化を捉える事ができる視点や視野をもつ事は、時代に適応する上で必要不可欠です。

視点を増やし、視野を広げる事が、自身の可能性の最大化へ

新たな視点や視野から物事を捉えられるようになることは、昨日まで知らなかったことを認識できるようになること、理解のなかったことに理解が深まることに繋がります。それは好機をより認識できる機会が増えることであり、好機の認識は自身の可能性が飛躍的に高まるきっかけとなるものです。しかしそういった未知の事象を認識できるようになることは、日常の中では難しいものです。いつもとは異なる環境に身を投じることや、新たな仲間との交流も必要となるでしょう。時には無駄と感じる事も、その機会の一つだと捉えるならば、決して無駄になるものではないと考えます。様々な機会を経て、自身の可能性が高まった人材はポジティブに変化し、地域のリーダーとして地域に良い影響をもたらすことに繋がります。

### 【笑顔があふれる地域、とやまを目指して】

昨年私たちは、全国大会主管という本当に大きな経験を得ることが出来ました。この経験は、行政や各諸団体、そして主管を目指してから卒業されていった先輩諸兄や、多くのシニア会員の方々、副主管青年会議所のメンバー、全国のJCメンバーの協力があつて得ることができたものでした。そして開催における大きな障害も、結果としてこの富山JCの結束を強め、これからの運動における使命感を一層強める事になりました。この経験を基に本年私たちには、68年間脈々と受け継がれてきた先達の想いをしっかりと紡いでいくため、この富山JCを永続的な団体へと昇華させるためにも、ひいては『より良い地域の実現』のためにも、一人でも多くの仲間と笑顔あふれる運動を行っていくことが必要です。

そしてもう一つ重要なもの、それは家族や仲間、協力や支援をいただいている方々の存在です。その存在は、私たちの運動に絶対に欠かしてはならないものです。私たちが活動する時には必ず誰かが支えてくれています。私たちは、そのことを決して忘れることなく、感謝の気持ちを伝える事が肝要です。それはさらなる理解と協力を繋がり、私たちの笑顔あふれる運動を推し進める原動力となるものです。

そこに笑顔はあるのかい！

『より良い<sup>まち</sup>地域の実現』のため

「笑顔があふれる<sup>まち</sup>地域」を目指し、笑顔あふれる運動を進めていきましょう！